

令和6年8月28日

亀山市議会議員 森 美和子 様

調査研究報告書

会 派 名	森 美和子
報 告 議 員 名	森 美和子
調 査 日	令和6年8月22日
調 査 目 的 等	渋谷区「探求学習について」
<p>人口約23万人の渋谷区では、未来の学校プロジェクトとして小中学校25校（小中一貫校あり）中22校を20年間で建て替えの方向で計画されている。学校がまちの一部として誰もが活用できる場になるよう計画されている。</p> <p>小学校18校 約8,000人 中学校8校 約2,000人（小学生の約半数は私学に進学）が公立に通っている。</p> <p>令和6年度からの教育大綱は、区長の教育にかける思いが詰まったメッセージとして2ページにまとめられている。子どもたちの学ぶ力を信じ、教師は子どもたちの学びの伴走者であるとの理念で進められている。</p> <p>探求学習に関しては、文部科学省の授業時数特例校制度を活用している。授業時数特例校制度とは、国語や算数・数学など学習指導要領で定められた授業の一部を総合的な学習に上乘せすることである。</p> <p>授業時数特例校制度の導入に関して、通常ならばモデル校を選定して行うところだが、渋谷区の公立学校に関しては、区内全小中学校で一斉にスタートさせている。</p> <p>(続きは次頁へ)</p>	

(続紙)

「シブヤ未来科」がスタートした経緯

OECD（経済協力開発機構）がこれからの時代に身につける必要がある3つのポイントとして「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマを克服する力」「責任ある行動を取る力」が示されていることを受け、時代の変化が激しく予測が困難な時代を生き抜いていく子どもたちが、特に「新たな価値を創造する力」を身につけるためには、みんな一緒に、同じペースで、同じことをする現在の教育は過去のものとして捉えている。これからの時代は自律した個が多様な他者と協働して新たな価値を創造していくことが重要である。すべての子どもの可能性を最大限に引き出す教育に転換していく。2030年を見据えた学びの羅針盤（ラーニングコンパス）。

1限～4限 教科を中心とした授業、5限6限 探求授業（総合学習を「シブヤ未来科」として 70時間→155時間に拡大）
探求学習には積極的に企業の参加を呼びかけている。

企業とともにTシャツやエコバックのデザインを企画、販売まで手がけている事例もある。企業側には本気でダメ出しを求めるなど、真剣勝負で望んでもらっている。子どもたちの様々な発想に企業側の新たな気づきも生まれていると聞いた。

[所感]

老朽化した学校の建て替えは、どの自治体にもある課題だが、子どもたちの将来を見据えた、あるべき教育の形を探りながらの学校の建て替えも含めた教育改革であるように感じた。午後の授業を探求学習にしたために削られた教科を中心とした授業時間で学力の低下はないのか心配だったが、逆に探求学習の中の学びに教科がついてくる。また、企業などにも手伝ってもらおう。

保護者の理解については、当初大きな反発があったが、話し合いを進める中で理解してもらった。何より子どもたちが喜んで学習している姿に今では保護者も企業と繋げてくれるなど応援団になっている。不登校の子どもたちに関しては、探求学習にのみ出てくる子もいるようになった。職員の働き方改革については、探求学習には準備など負担は多くなった。

しかし、負担軽減のためのICTの活用や企業、NPO、大学などの外部の人的資源のストックなどを教育委員会が準備している。不登校児童生徒が増加傾向にある現在、教育に必要なことは何なのか。今回の視察を通して、教師はティーチャーからファシリテーターへ。学びのコーディネーターへの転換が必要であるように思う。簡単ではない問題だが、亀山市でできることはないのか掘り下げていきたい。まだ今年度から始まった探求学習の導入。今後の成果に期待したい。しかし何よりも渋谷区の子どもたちが生き生きと学習に向かう姿が答えではないのかと感じた。

(続紙)

